

南アフリカ共和国

The Republic of South Africa

	2015年	2016年	2017年
①人口：5,652万人（2017年央）			
②面積：121万9,090km ²			
③1人当たりGDP：6,180米ドル （2017年推計）			
④実質GDP成長率（%）	1.3	0.6	1.3
⑤消費者物価上昇率（%）	4.6	6.4	5.3
⑥失業率（%）	24.5	26.5	26.7
⑦貿易収支（100万ランド）	△46,147	34,705	68,856
⑧経常収支（100万ランド）	△186,084	△121,188	△114,317
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	45,787	47,356	50,722
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	124,132	142,833	173,286
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ランド、期中平均）	12.76	14.71	13.33

〔注〕⑥：第4四半期、⑦：国際収支ベース（財・サービス）、⑩：2017年は9月末時点
〔出所〕①④～⑥：南アフリカ共和国統計局、②：南アフリカ共和国政府、③⑩：IMF、⑦～⑪：南アフリカ共和国準備銀行

2017年の南アフリカ共和国（以下、南ア）の実質GDP成長率は、農業の回復や個人消費の拡大により1.3%となり、前年の0.6%を上回った。貿易は、国際的な資源価格の回復を受けて鉱石の輸出が増加し、貿易黒字が拡大した。対日貿易は、メイズや乗用車の輸出が増加し、黒字幅が拡大した。

■ 農業の回復、個人消費の拡大で成長率は1.3%に上昇

2017年の実質GDP成長率は1.3%で、前年の0.6%を上回り、2015年の水準に回復した。産業別では、前年に干ばつ被害で不振だった農業で主要穀物のメイズが豊作となり、前年比17.7%増となった。鉱業も国際的な資源価格の回復を受けて4.6%増となった。金融・保険・不動産・企業サービスなどの第三次産業は1.9%増となり、プラス成長を維持した。

需要項目別では、民間最終消費支出が前年比2.2%増となった。2017年7月の政策金利の切り下げにより個人向け融資が拡大した。国内総固定資本形成は民間企業による機械・同機器や輸送機器への設備投資が拡大し、前年比0.4%増とプラスに転じた。

2017年の為替レートは、政治の不透明性の高まりを理由に同年4月に大手格付け機関2社が南アの長期国債を17年ぶりに投資不適格級に格下げしたことや、同年12月

の与党総裁選に伴う内政の混乱により年間を通じて変動した。一方、世界経済の緩やかな成長に伴う資源価格の回復を背景に為替ランド高が進行した。この結果、輸入価格が低下し消費者物価指数上昇率（CPI）は2017年通年で5.3%と、南ア準備銀行の目標圏内（3～6%）に収まった。

■ 2018年は緩やかな成長回復を予測

IMFは2018年4月の発表で、南アの2018年のGDP成長率は前年から緩やかに回復するとして、1.5%と予測している。2018年2月に親ビジネス派とされるシリル・ラマポーザ氏が新大統領に就任し、政治の不透明性の解消や財政再建への期待が高まったことを受けたものだ。一方、準備銀行の6月の発表によると、2018年第1四半期のGDP成長率はマイナス2.2%と4期ぶりのマイナス成長となった。メイズの収穫量が、一部地域の降雨不足により減少したほか、水不足が深刻な西ケープ州を中心に野菜、果樹、花卉（かき）などの生産量が落ち込み、農業が24.2%の大幅減となったことが大きい。鉱業は金やプラチナ類の生産が落ち込み、前期の4.4%減からさらに低下して9.9%減となった。製造業も低調で、鉄鋼をはじめとする金属生産の低迷を受け6.4%減となった。

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

	2016年	2017年				2018年	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	
実質GDP成長率	0.6	1.3	△0.5	2.9	2.3	3.1	△2.2
民間最終消費支出	0.7	2.2	0.9	3.8	2.4	3.6	1.5
政府最終消費支出	1.9	0.6	△1.2	0.6	1.3	1.6	1.2
国内総固定資本形成	△4.1	0.4	△3.1	△0.2	△2.7	7.4	△3.2
財貨・サービスの輸出	1.0	△0.1	△3.3	8.0	△0.6	12.3	△16.5
財貨・サービスの輸入	△3.8	1.9	△1.6	12.2	△11.3	26.5	△6.5

〔注〕 四半期の伸び率は前期比。

〔出所〕 南ア準備銀行

■ 鉱石の輸出が好調で貿易黒字幅が拡大

南ア歳入庁によると、2017年の貿易（通関

ベース、暫定値)は、輸出が前年比7.9%増の1兆1,869億ランド、輸入は同0.7%増の1兆1,070億ランドとなり、共にランド建てでは過去5年間で最高を記録した。貿易収支は799億ランドで2年連続の黒字となり、黒字幅も拡大した。

輸出を品目別にみると、いずれも金額ベースで貴石・貴金属(構成比16.7%)が8.8%増、鉄鉱やマンガン鉱などの鉱石・スラグおよび灰(同12.7%)が34.5%増、石炭などの鉱物性燃料(同11.8%)が28.9%増となり、世界的な需要の回復を受け好調だった。自動車の排ガス触媒として用いられるプラチナは数量ベースでは58.6%増となったが、国際価格の低下を背景に金額ベースでは1.1%減となった。金は金額ベースでは35.8%増、数量ベースでは50.8%増だった。自動車をはじめとする輸送機器(構成比11.0%)の輸出は、ランド高により輸出競争力が低下したことにより3.1%減となった。乗用車輸出の約4割を占めるドイツ向けは前年比1.7%増となったが、米国(前年比10.6%減)、オーストラリア(同3.3%減)、韓国(同25.2%減)向けが減少した。南ア自動車製造者協会(NAAMSA)によると、2017年の国内の自動車生産台数は前年比1.3%減の59万2,000台で2年連続の減少となった。うち、輸出台数は全体の55.4%を占める32万8,000台で前年比5.9%減となった。

国・地域別輸出では、首位の中国が輸出額1,156億3,200万ランドとなり、前年比14.3%増となった。構成比は前年の8.8%から9.7%に上昇した。品目別では輸出の3割強を占める鉄鉱石が金額ベースで26.6%増となったほか、マンガン(36.0%増)やクロム(32.0%増)も大幅に増加したが、鉄鋼原料となるフェロアロイは37.3%減となった。

前年3位の米国は輸出額の2割強を占めるプラチナが前年比39.5%増と大幅に増加したため、ドイツを抜いて2位となった。3位のドイツは輸送機器(構成比41.7%)が不調だったため前年比2.2%増にとどまった。前年7位のインドは、輸出の5割強を占める石炭の輸出が前年比12.2%増と好調で5位に浮上した。

サブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ、構成比25.8%)向けは0.8%減となった。前年4位の隣国ボツワナは、研磨用のダイヤモンドの減少(10.7%減)を背景に6位に後退した。前年5位のナミビアも同国向け最大輸出品目の自動車が24.4%減少し、順位を二つ落とした。域内3位の輸出相手国のモザンビークは南ア国内港の代替港として利用され、クロムの輸出額が前年比約2.3倍、銅鉱が同約3倍となり、全体で16.3%増となった。域内4位のザンビアは石油・同調整品が減少(37.9%)し、全体で2.1%減だった。

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)				
	2016年		2017年(暫定値)		2016年		2017年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	前年比	金額	金額	構成比	前年比	
貴石・貴金属など	182,559	198,546	16.7	8.8	鉄物性燃料	147,812	163,276	14.8	10.5
鉱石・スラグおよび灰	112,407	151,150	12.7	34.5	一般機械	150,750	146,287	13.2	△3.0
鉄物性燃料	108,787	140,208	11.8	28.9	電気機器・同部品	118,798	113,245	10.2	△4.7
輸送機器	134,597	130,497	11.0	△3.1	輸送機器	84,950	93,008	8.4	9.5
鉄鋼・同製品	77,524	80,513	6.8	3.9	プラスチックおよび同製品	33,140	33,052	3.0	△0.3
一般機械	75,949	71,547	6.0	△5.8	医療用品	27,768	29,787	2.7	7.3
食用果実、柑橘類など	42,436	45,151	3.8	6.4					
合計(その他含む)	1,100,311	1,186,933	100.0	7.9	合計(その他含む)	1,099,292	1,107,004	100.0	0.7

[出所] 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)				
	2016年		2017年(暫定値)		2016年		2017年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
中国	101,174	115,632	9.7	14.3	中国	198,991	202,938	18.3	2.0
米国	80,392	88,647	7.5	10.3	ドイツ	129,683	127,379	11.5	△1.8
ドイツ	82,028	83,869	7.1	2.2	米国	72,902	72,759	6.6	△0.2
日本	50,760	55,478	4.7	9.3	インド	45,643	52,184	4.7	14.3
インド	48,054	55,289	4.7	15.1	サウジアラビア	41,692	51,217	4.6	22.8
ボツワナ	54,597	51,189	4.3	△6.2	日本	37,529	37,684	3.4	0.4
ナミビア	51,920	47,544	4.0	△8.4	英国	31,802	33,252	3.0	4.6
英国	46,481	46,357	3.9	△0.3	タイ	31,757	33,233	3.0	4.6
モザンビーク	33,273	38,711	3.3	16.3	イタリア	27,065	29,564	2.7	9.2
オランダ	28,818	36,989	3.1	28.4	フランス	33,055	27,862	2.5	△15.7
ベルギー	33,627	33,016	2.8	△1.8	ナイジェリア	30,460	22,855	2.1	△25.0
合計(その他含む)	1,100,311	1,186,932	100.0	7.9	合計(その他含む)	1,099,292	1,107,004	100.0	0.7

[出所] 南ア歳入庁

EU28向け（構成比22.1%）は4.8%増となった。乗用車（1.3%増）や、グレープフルーツをはじめとする果物（1.0%増）が増加したが、貴石・貴金属（0.3%減）やワイン（5.4%減）の輸出は減少した。

■石油精製施設の生産力低下により石油輸入急増

輸入を品目別にみると、鉱物性燃料（構成比14.8%）のうち、原油は金額ベースで前年比11.0%減、重量ベースで19.5%減となった。石油は国内の石油精製施設の老朽化による生産能力の低下を背景に、金額ベースで前年比57.1%増、重量ベースで38.3%増となった。

一般機械（構成比13.2%）、電気機器・同部品（同10.2%）はそれぞれ3.0%減、4.7%減となった。動植物生産品・食料品類（構成比8.1%）は前年比4.6%減となった。主要穀物であるメイズの輸入が、豊作の影響で同99.7%減と大幅に減少したためだ。乗用車（構成比4.8%）の輸入は前年比7.7%増となったが、ランド高による輸出競争力の低下で国内生産台数が減少したことにより、自動車部品の輸入は3.5%減となった。

国・地域別輸入では、11年連続で中国（構成比18.3%）が首位となった。総額の約26%を占める電化製品が7.5%増となり、全体では2.0%増となった。2位のドイツは一

般機械（10.6%減）や電気機器（21.4%減）の輸入が減少し、全体で1.8%減となった。3位の米国は光学機器（10.2%減）、電気機器（10.2%減）の輸入が減少し、前年比0.2%減となった。4位のインドは乗用車などの輸送機器（28.8%増）や医薬品（22.5%増）の輸入が大幅に増加し、14.3%増となった。サブサハラからの輸入（構成比10.0%）は1.6%減少した。域内輸入の約2割を占めるナイジェリアからの原油輸入が大幅に減少（25.8%減）したことが最大の要因とみられる。

■国内の政情不安を受けて対内直接投資が減少

南ア準備銀行によると、2017年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比46.3%減の176億6,300万ランドだった。国内の政情不安を受けた長期国債の格下げを背景に、国内への投資が大幅に減少した。一方、対外直接投資は49.1%増の981億3,500万ランドだった。

2017年の外国企業による南ア向けの大型投資案件では、ユニリーバ（本拠：オランダ、英国）による南ア投資会社レムグロが保有するユニリーバ・サウスアフリカの株式25.75%の取得発表（119億ランド、2017年9月）があった。ほかにも、米カーライル・グループによる職業衛生・安全・環境リスクサービス大手ノサの買収発表（8億ラ

表4 南アフリカ共和国の主な対内直接投資案件（2017年）

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
自動車	いすゞ自動車	日本	2017年5月	買収額非公表	米ゼネラルモーターズ（GM）との合弁の南ア商用車生産部門の完全子会社化
IT・通信	NTT	日本	2017年5月	買収額非公表	NTT南ア完全子会社ディメンジョン・データの子会社インターネット・ソリューションによるインターネットサービス大手エムウェブ・コネクトの買収
鉱業	シルバニア・プラチナ	英国	2017年7月	9,000万ランド	パン・アフリカ・リソーシズ所有のフェニックス・プラチナプロジェクトの買収
電機	シーメンス	ドイツ	2017年7月	買収額非公表	低電圧配線器具大手クラブツリーの買収
衛生	LIXIL	日本	2017年9月	3億ランド	南アディストリビューション&ウェアハウジング・ネットワーク社の株式49%追加取得
日用消費財	ユニリーバ	英国	2017年9月	119億ランド	ユニリーバサウスアフリカの南アレムグロ持ち株25.75%取得
金融	カーライル・グループ	米国	2017年10月	8億ランド	職業衛生、安全、環境リスクサービス大手ノサの買収
広告	電通イージス・ネットワーク	日本	2017年10月	株式取得額非公表	広告大手フォックス・ビーター・ホールディングスの株式52.05%取得

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表5 南アフリカ共和国の主な対外直接投資案件（2017年）

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
食品	ビッドコープ	スペイン	2017年4月	11億ランド	スペイン食品サービス大手グズマン・ガストロミアの株式90%取得
保険	ディスカバリー	日本	2017年5月	（業務提携）	住友生命と健康増進型保険商品の日本展開に向けた業務提携
通信	ボーダコム	ケニア	2017年5月	346億ランド	ケニア大手通信サファリコムの英ボーダフォン持ち株34.94%取得
金融	ビッドベスト	アイルランド	2017年7月	27億ランド	アイルランド施設管理サービス大手ノーナンの買収
通信・娯楽	ナスパーズ	ドイツ	2017年9月	7億ユーロ	ドイツオンライン食品サービス大手デリバリーヒーローの株式23.6%への買い増し
製薬	アスペン・グループ	英国	2017年9月	8億ユーロ	英国製薬大手アストラゼネカの麻酔販売権取得

〔出所〕各社発表および報道などから作成

ンド、2017年10月)、独シーメンスによる低電圧配線器具大手クラブツリーの買収発表(買収額非公表、2017年7月)などがあった。

南ア企業の対外直接投資案件では、通信大手ボーダコムによるケニア通信大手サファリコムの英ボーダフォン持ち株34.94%の取得発表(346億ランド、2017年5月)の大型案件があった。ほかにも、通信・娯楽大手ナスパズによるドイツのオンライン食品サービス大手デリバリーヒーローの株式23.6%までの追加取得(7億ユーロ、2017年9月)、製薬大手アスペン・グループによる英アストラゼネカからの麻酔販売権取得(8億ユーロ、2017年9月)、金融大手ビッドヴェストによるアイルランド施設管理サービス大手ノーナンの買収(27億ランド、2017年7月)、ビッドヴェスト傘下の食品大手ビッドコープによるスペイン食品サービスのグズマン・ガストロミアの株式90%取得発表(11億ランド、2017年4月)などがあった。

■対日貿易額は輸出入ともに増加

南ア歳入庁によると、2017年の対日輸出は前年比9.3%増の554億7,800万ランド、対日輸入額は0.4%増の376億8,400万ランドだった。南アにとって日本は、国別の輸出額で中国、米国、ドイツに次ぐ4位となり、前年の6位から順位を伸ばした。輸入相手国では日本は前年と同じ6位だった。

対日輸出を品目別で見ると、自動車の排ガス浄化触媒に使用され輸出総額の約半分を占める白金(プラチナ)は前年比0.6%増の微増にとどまった。輸出額の増加を主に牽引したのは、乗用車(前年比28.7%増)、マンガン鉱(2倍強)、メイズ(1,268倍)だった。

対日輸入を品目別で見ると、総輸入額の18.0%を占める乗用車が15.8%増となった。また、主に鉱山用で使用されるブルドーザー・地ならし機など(構成比5.2%)は71.9%の大幅増となった。一方で、電気機器・部品は3.1%

減、主に医療用の光学機器などが8.1%減となったほか、2017年3月にセーフガード追加関税措置が取られたフラットロール製品の輸入が前年比50.6%の大幅減となった結果、輸入総額全体は前年比ほぼ横ばいとなった。

日本の財務省統計によると、2017年の南アへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は1,193億円で、2016年の1,155億円とほぼ同水準だった。近年の主な動きでは、いすゞ自動車による米ゼネラルモーターズ(GM)との合弁の南ア商用車生産部門の完全子会社化(買収額非公表、2017年5月発表)、NTTグループ会社であるディメンジョン・データの子会社インターネット・ソリューションズによるインターネットサービス大手エムウェブ・コネクットの買収(買収額非公表、2017年5月発表)、LIXILによる南ア大手衛生用品メーカー・ディストリビューション・アンド・ウェアハウジング・ネットワーク(DAWN)の株式49%追加取得(3億ランド、2017年9月発表)、電通イージス・ネットワークによる広告大手フォックス・ピーター・ホールディングスの株式52.05%取得(金額非公表、2017年10月発表)などがあった。

2018年に入ってから、南ア競争委員会が統合に反対していた日本郵船、商船三井、川崎汽船の海運3社によるコンテナ事業船会社オーシャン・ネットワーク・エクスプレス(ONE)が競争裁判所に統合を認められたほか(2018年1月発表)、NECによる南アシステム開発大手エクソンの株式59.1%までの追加取得(金額非公表、2018年2月発表)、阪神阪急エクスプレスによる南アのフォーワダーであるイントラスピードの66.7%株式取得(金額非公表、2018年2月発表)などがあった。2018年5月には、ヨハネスブルクで日本政府、南ア政府、ジェトロ主催による「日アフリカ官民経済フォーラム」が開催され、世耕弘成経済産業相やシリル・ラマポーザ南ア大統領らが出席し、関係強化を呼びかけた。

表6 南アフリカ共和国の対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出(FOB)					輸入(FOB)			
	2016年	2017年(暫定値)				2016年	2017年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	前年比		金額	金額	構成比	前年比
貴石・貴金属など	24,529	24,683	44.5	0.6	輸送機器	9,636	10,139	26.9	5.2
輸送機器	5,835	7,506	13.5	28.6	一般機械	7,294	8,107	21.5	11.2
鉱石・スラグおよび灰	5,886	7,310	13.2	24.2	電気機器・同部品	2,136	2,070	5.5	△3.1
鉄鋼・同製品	3,840	3,391	6.1	△11.7	ゴムおよび同製品	1,446	1,371	3.6	△5.2
木材および同製品	2,307	2,515	4.5	9.0	タイヤ	1,095	1,027	2.7	△6.2
アルミニウムおよび同製品	2,145	1,861	3.4	△13.2	光学機器など	1,253	1,151	3.1	△8.1
穀物	2	1,612	2.9	83858.3	鉄鋼・同製品	1,109	867	2.3	△21.8
合計(その他含む)	50,760	55,478	100.0	9.3	合計(その他含む)	37,529	37,684	100.0	0.4

[出所] 南ア歳入庁